

「平成25年度要員計画について」 会社提案を受け議論を行う。

4月22日、会社資料「平成25年度要員計画について」（別紙参照）の説明を受けた後、疑問点や問題点について議論しました。

《若干のやり取り》

要員全般について

組合：昨年も同じ指摘をしたが、「電気」の枠の基準人員が増えていないのは新採の要員を入れていないということか。

会社：新採の要員を入れていないため。

組合：昨年、新採が入って要員が今年も変わらないということは、異動があったということか。

会社：異動については分からない。

組合：基準人員で昨年より12名増えているがなぜか。

会社：一時的に、ダイヤ改正やプロジェクト、輸送・営業体制を考慮している。

組合：昨年の実績からすると「その他の退職」が増えているが、何かあるのか。

会社：結婚や転職等の自己都合退職が増えている。

組合：死亡退職は何名いるのか。

会社：4名位いる。

組合：メンタル面などの自己都合退職は多い傾向にあるのではないかと。

会社：いないことはないが、34名の中ではごくわずかである。

組合：乗務員養成の中で毎年「最大限の養成」として、昨年より車掌の枠が10名減っているが。

会社：中長期的な退職者等を入れつつ養成計画している。

組合：27番線やN700A導入で繁忙期のお客が増えているなかで要員を減らしているが、休日出勤の解消は考えていないのか。

会社：そこも見つつ計画している。今年度の休日出勤は、一泊から二泊程度になる。

組合：ゼロにはならないのか。

会社：読めない。大量退職時代が終わり、定年退職等色々な要素から採用人数も縮小傾向になっての計画である。

環流約20名について

組合：駅への異動人員を減らすことは出来ないのか

会社：まさしく新人事制度なので、それはない。

組合：「何もいいことがなかった」と言う人もいる。

会社：「有意義だった」と言う社員もいる。

組合：国鉄採用の駅異動はあるのか。

会社：全くないということはない。

組合：年齢的にも無理がある。

専任社員について

組合：昨年に比べて専任社員が少ないが。

会社：退職者数が少ない。

組合：希望しない社員はどのくらいいるのか。

会社：片手よりも少ない、退職者はほとんど希望し、専任社員になっている。

非現業の△14の内訳について

組合：非現業部門における業務運営体制の見直し△14の各部ごとの内訳は。

会社：管理部4、運輸営業部4、工務部6。

組合：その社員の振り分けは。

会社：リニア中央新幹線、大規模改修工事関連などではないか。

年休の消化率について

組合：年休の消化率について把握していれば明らかにすること。

会社：運輸営業系統16日、車両系統17日、工務16日、電気13日。

組合：この消化率で支社は満足しているのか。

会社：満足とかではなく、実績ということだ。

組合：休日出勤してこれか。社員は納得していない。年給を出るだけの要員を確保すること。時期変更したら代替日をするべき。強く要望しておく。

協約に反する特休の付与数について

組合：運輸所で今月、特休が8から10日と以上に多く付与されている。協約では5ないし6となっている。協約にも違反している。指導すべきだ。

会社：あまりよくないことだ。個別のことはよく分からない。

組合：現実に10日も付与されている社員がいる。調査して対応すべきだ。

会社：調査する。

総合職の運転士養成について

会社：補足ですが、今年度は技術系総合職の乗務員養成はしない。△20から△30。

毎年、8月下旬から養成し、3・4月頃に一本立ちする総合職です。

組合：理由は何か。

会社：専門職に専念するためである。

組合：年休が出なくなるのでは。

会社：そんなに影響はないと思う。

以上